

## モデル防災部による地域発災型の初動活動訓練

### 特色のある内容

「モデル自主防災部」での「発災型の初動活動訓練」を紹介します。

訓練の3週間前に各防災部の役員（町内会長，防災部長）に訓練説明会の案内状を出し，各防災部の役員を招集しました。そして，防災会本部役員に消防署から訓練の趣旨・内容・目標等を説明し，3防災部をモデル防災部に選定しました。

訓練当日，この3防災部が地震発生後の初動活動訓練として，各家庭での火元確認・避難路確保のほか，役員・住民間の情報伝達，初期消火訓練，避難困難者の救出・避難誘導訓練を実施しました。

事前に火災発生場所と要救助者だけを決めておき，初期消火，情報伝達，救出活動・避難誘導の役割分担はその場で防災部長が指示し実施しました。これらの訓練を署員と消防団員が見守り，内容について検証しました。

訓練内容の細部は各防災部に任せため，防災部ごとの現在の「災害対応力」がそのまま表われますが，今回の訓練では住民の熱心な取組が感じられました。

### 特記事項

- モデル防災部は，防災部長（町内会長兼任）が過去に自主防災リーダー研修に参加した防災部で，かつ防災部単位の訓練を近年では実施していない防災部を選定しました。
- 訓練内容の検証結果ですが，地震発生後，防災部長の指示で，町内のDDAに基づく（各班の）役割分担の活動を実施していました。
- 消火訓練と避難困難者の救出・避難誘導訓練は比較的スムーズに実施されましたが，各班長間の連携や情報交換及び防災部長への報告などはうまくできていませんでした。
- 各防災部ともスムーズに訓練がなされたとは言えませんが，署員と団員の指導を受けずに，防災部長の指示のもとで町内住民が一体となって，実施したことに意義があったと考えます。

## 廃油を再利用した手作りランタン作り

### 特色のある内容

葵学区自主防災会では、学区総合防災訓練において、廃油（天ぷら油）、空缶を再利用した手作りランタンを製作する訓練を実施しました。

この訓練を取り入れた背景には、大地震時、消防局が市民に推奨する非常持出袋内に、懐中電灯を掲げているものの、予備の電池や家族構成（人数）等の状況次第では、懐中電灯が不足することが考えられます。そこで、震災時においても身近にあるものを利用して懐中電灯の代替品を製作する技術（知識）を習得することを目的としました。

#### 製作要領

- ①空缶を底面から約7cmの部分で切る
- ②アルミホイルで、切断面を覆い保護
- ③アルミホイルで、台をつくる
- ④ティッシュ1組を1枚に分け、こよりを作る
- ⑤こよりを③で作った台に差込み、台の端を空缶の縁に掛ける
- ⑥天ぷら油を⑤で作った台を浸すまで入れる
- ⑦こよりに火を点ける

#### 用意するもの

天ぷら油 アルミホイル  
ティッシュ 空缶（アルミ製）



### 特記事項

- 葵学区総合防災訓練では、消火訓練、救急訓練、防災器材取扱訓練等を毎年実施しているため、学区民の防災に関する技量及び知識については一定の効果は期待できるものの、更なる効果は期待できない状態でした。そのことから、総合防災訓練の趣向を変え、特色あるものとするため、手作りランタンの製作を訓練項目に取り入れました。訓練終了後、訓練参加者から、充実したものになったとの意見を多く寄せられ、効果のある訓練となりました。
- 苦労話…空缶（アルミ製）を訓練参加者分（200本）用意する必要があることや、空缶を切断する作業があるため、訓練参加者の安全管理に配慮しました。

## 防災クイズで気分転換

### 特色のある内容

八瀬自主防災会では、毎年、学区の運動会に1種目だけ、防災を取り入れて参加しています。担架作成搬送リレーや初期消火障害物リレーなどの種目を立案し、少しでも防災に興味を持ってもらえるよう工夫しています。

学区総合防災訓練においても、避難訓練、救出救護訓練、給食給水訓練などは、毎年継続して行っていますが、それらの訓練だけではマンネリ気味になることから、19年度の訓練では防災クイズのコーナーを新たに設けました。

八瀬学区は任意避難地域にあたり、原則として住民の自主判断に基づいて避難する地域で、避難救助拠点も八瀬小学校が指定されています。

地域住民に知っておいてほしい事や、防災に関しての問題を○×式で作成し、各自主防災部ごとにコーナー訓練として行いました。

不正解の方は横に移動してもらい、正解の方だけが前方に進んでいただき、最後まで残った方には、賞品（三角巾など）をお渡ししました。○×式ですので、気軽で少し遊び的な要素を取り入れることで気分転換になり大変好評でした。



### 特記事項

- 問題を作成する段階では、比較的やさしい問題から段階的に難易度を上げていくことや、また地域特性を考慮した問題づくりを心掛け、相当数の問題を用意しました。しかし、防災部によっては、予想より早く正解者が減り、再度一からやり直すなど思わぬ展開となりました。

しかし、不正解の問題ほど知識として頭に残っていると考えています。

## 「劇」で自主防災活動を知る

### 特色のある内容

朱八地域自主防災会では、学区総合防災訓練の各ブロック訓練の後、全体訓練として「京都大地震 ある町内の場合」と題した広報劇を自主防災会役員が中心となり行った。地震発生直後のある町内の出来事を通して、自主防災活動を分かりやすく紹介する広報訓練を実施しています。劇のテーマ「命を守る」から、家具の転倒実験、近隣の安否確認、防災資器材の使用方法、倒壊家屋からの救助方法、火災発生時の初期消火方法など、発災直後に起こりうる町内での出来事をストーリーにして、自主防災活動の必要性や重要性を住民に訴えています。



### 特記事項

- この訓練のポイントは、住民に自主防災活動を分かりやすくイメージできるように伝えるため、「見る」、「聞く」ということを重点に構成するようにしました。
- 訓練のストーリー、シナリオ、配役、演技指導、そして使用する大道具などすべてが自主防災会役員を中心とした住民による手作りで、瓦屋根の構造模型やタンスなどは、廃材を利用して作製しました。訓練参加者へのアンケート調査の結果は、良好で、「わかりやすかった。」という意見を多く寄せていただきました。

## 小学生からの防災教育

### 特色のある内容

下京区では、地域の安全と安心のまちづくりのため、「春が来る来る」という趣旨で「スプリングカムカム防災フェスティン洛央」と題し、洛央小学校で防災フェスタを開催しました。

防災フェスタは二部構成で、第一部は消防音楽隊の演奏やAED普及劇等の催しを楽しみ、第二部ではAED体験コーナーや消火器体験コーナー等において来場者が自ら体験し学ぶという構成で開催しました。

消火器体験コーナーでは、初めて消火器を触る子供たちが、職員の指導のもと、元気いっぱい消火訓練を実施していました。

また、AED体験コーナーでは、消防職員が操作するAEDを子供たちが興味津々に見入っていました。

最後にメイン行事として、校庭に人文字で「洛央」を描き、ヘリによる写真撮影を実施しました。



### 特記事項

- 普段の生活の中では、子供が消火器やAEDの操作をするということはありません。
- 今回の防災フェスタは、「万が一の時に自信をもって消火や救命活動ができる子供の育成」ということに主眼をおいて計画しました。

## 大地震に備えて

### 特色のある内容

九条学区自主防災会と東梅逕学区自主防災会は、比較的規模の小さな学区のため、毎年合同で総合防災訓練を実施しています。

平成19年度及び平成20年度は、京都市市民防災センターで、消火訓練及び避難訓練を実施するとともに、地震及び強風の体験をしました。



### 特記事項

- この二学区は、高齢化が進んでおり、学区の総合防災訓練には多くの高齢者が参加されるため、健康上の理由から、屋外での長時間訓練の実施が困難な状況です。
- また、地域特有の事情から土曜日及び日曜日の昼間は、多くの参加者を望めず、毎年、ややもすると、同じような内容になってしまうこと、さらには、地理的に防災センターに近いことなどから、市民防災センターでの防災学習に力点をおいて行っています。

## 伝えよう自主防災の輪

### 特色のある内容

花園学区自主防災会では、学区総合防災訓練において、学区の次の担い手に自主防災の原点である“自分たちの町は自分たちで守る”を伝承しようと、地元花園消防分団の協力を得て、小型動力ポンプからの放水体験を小学生にも体験してもらい、消防・防災への関心を高めています。

参加した小学生たちからは、「簡単にできるかと思っていただけ、とても重たかったです。」「消防ってすごいなあっと思いました。」「火事にならないように気を付けないとあかんねえー」などの感想が聞かれました。今回の訓練を通じて防火・防災の“心”は、着実に身をもって伝わっていると確信しています。



### 特記事項

- 自主防災の輪を広げ、伝承するには、どのように工夫すればいいのかを試行錯誤しているところですが、学区総合防災訓練をより多くの住民が体験できる訓練にすることにより、参加者が防火・防災について興味を持てるよう努力しています。

## 競技形式での消火・救出・搬送・救護訓練

### 特色のある内容

平成18年度の防災訓練は、初動措置訓練、避難訓練、情報収集・情報伝達訓練や消火・救出・搬送・救護訓練、給食訓練を実施する中で消火・救出・搬送・救護訓練を競技形式で実施されました。

一つのチームを4名で編成、各自主防災部ごとに2チームから4チームが参加され、一つのコースに次のポイントを設けて、各訓練を競技会形式で実施したものです。

- ・ 初期消火ポイント（訓練用消火器を標的に向け放出する。）
- ・ 救出（ジャッキを活用し、要救助者（人形）を救出する。）
- ・ 搬送（簡易担架を組み立て、救出した要救助者を救護所まで搬送する。）
- ・ 救護（要救護者を観察後、応急手当（骨折）の処置を行う。）

参加した皆さんからは、真剣な中にもなごやかな雰囲気での訓練であったと好評でした。

### 特記事項

- 競技形式を取り入れることにより、真剣な中にもなごやかな雰囲気の中で訓練が実施でき、自主防災部として心がひとつになったように感じられました。